

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370104905		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム出水		
所在地	熊本市中央区国府2丁目6番91号		
自己評価作成日	平成24年12月31日	評価結果市町村受理日	平成25年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成25年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者の憩いと活性化の場としての役割を担い、個性に応じた柔軟なケアを目指します。②四季折々の行事を活動の中に取り入れながら、実践的な個別機能訓練を行い、心身機能の安定・向上を目指します。③可能な限り、在宅において自立した日常生活を営めるよう、家族・地域住民・関係機関と密にして支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方達と同じテーブルを囲んで、時々談笑しながら昼食を頂きました。食が終わり暫くすると、デザートが運ばれてきました。もちろん、運んで来られたのは利用者の方でした。その他にもこの事業所では、食器を洗われる方、食器を拭かれる方、洗濯ものをたたまれる方、布巾をたたまれる方等、大部分の方が何らかの役割をこなしておられました。拝見していて、その真剣な姿から役割がある事の大切さ、与えられるだけでなく、自分が役に立つことへの喜ぶみたいなのを感じ取る事が出来ました。とてもいい光景でした。それから事業所では現在、利用者に対して積極的に声を掛ける取り組みを行なっております。その甲斐もあってか、家族からは言葉がはっきりしてきたとか、会話が出来るようになったとか、好評のようです。今後も利用者本位に、いろいろな取り組みをお願いしたいと思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念である「三つの和」とグループホーム基本方針と四つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域との連携」を事業所内に掲示し、職員全員で周知徹底して実践に努めている。	法人の基本理念である「三つの和」とグループホームの基本方針、さらに四つの目標は見やすい玄関とホールのに掲示している。理念の共有については、毎月行なわれている法人内研修及びグループホーム会議、また年三回のグループホーム合同会議で周知徹底を図り、実践につなげる様取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており回覧板や、運営推進会議役員の方達から地域の情報を得ている。恒例の一斉清掃・校区運動会・公民館行事に参加している。地域幼稚園とも交流を図り、年3回行事慰問に沢山の園児達が来所する。また廊下壁面の展示を幼稚園に開放している。	自治会にも入会しており、また公民館長や消防会長を兼ねる自治会長が運営推進会議のメンバーでもあることから、地域の情報も得やすく、地域とのつながりも年ごとに深まっているようである。恒例の一斉清掃、また校区の運動会や公民館創立記念の餅つきには、利用者ともども参加している。また、地域の幼稚園とは永きにわたり交流を続けており、廊下壁面を幼稚園児の作品展示コーナーとして開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会・研修発表会などの結果を、家族会や運営推進会議などで報告し、認知症の理解や支援法について周知・普及を図っている。また地域包括支援センター主催の介護予防教室に協力して地域の集まりに参加している。勿論地域のスーパーや美容院等も利用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催し、グループホームでの活動や情報を報告し、ご意見や評価を受けている。またその結果をグループホーム会議で、職員と共有している。	会議は2ヶ月に一回、偶数月に行なわれている。メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等である。事業所の活動報告や利用者の状況報告、その他タイムリーな話題や事業所で発行している“出水だより”、更に認知症の分かりやすい話し等を取り入れ、和気あいあいのうちに行なわれているようである。	会議の中では、非常時の協力体制についても話題になっているようです。今後、より具体的な、また即応的なネットワーク作りに取り組んで欲しいと思います。

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市主催の集団指導・グループホーム連絡協議会に参加し、介護支援相談員を受入れて、必要な情報を収集し、指導を受けている。	市主催の集団指導や市内のグループホームで組織されている。連絡協議会また介護支援相談受け入れ事業所などを通して、市の担当者との協力関係を築いている。運営上、判断に苦慮するようなことが発生した場合には、すぐに連絡を取り、相談できる体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのマニュアルを作成し、日頃から拘束をしない対応に職員一同努め、ご家族にも理解を求めている。また年に1回グループホーム合同勉強会を行い、理解を深めている。防犯上の観点から、夜間のみ玄関の施錠を行っている。	身体拘束をしないためのマニュアルを整備している。年一回は、3事業所合同による勉強会を開いており、いろいろな事例を話し合うことで、理解が深まっているようである。玄関の施錠については、防犯上の観点から夜間のみ行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回グループホーム合同勉強会を行い、何が虐待にあたるか、知識・理解を深めている。また不適切なケアをしていないか、各自が常に自分を振り返るよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度に関する研修会に参加し、職員間で情報を共有している。必要な方には、地域包括支援センター等の窓口を紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすく説明し、充分納得していただいた上で、署名・捺印にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご希望・ご意見が出しやすい雰囲気作りやご家族と職員間の良好な関係作りに努めている。介護支援相談員を通しての利用者の意見も受入れてケアに反映させるように努めている。また第三者苦情受付窓口を設置し、対応している。	出来るだけ家族等からの意見や要望が収集出来るように、母の日、敬老会、クリスマス・忘年会と年3回行なわれる家族会や、また第三者苦情受付窓口のポスターを玄関やホールに掲示することにより、幅広い収集に努めている。さらに来年度は、意見箱の設置も決まっている。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回グループホーム会議を開いて、職員同士の意見交換会を行い、それ以外にも随時間く機会をもうけて、改善すべき点は改善している。	毎月のグループホーム会議やそれ以外にも随時意見を聞く機会を設けている。これまで、職員の提案で業務の流れを改善したり、畳ベッドの活用を行なったりしている。また、職員のスキルアップ支援にも力を入れており、受講料の助成や資格取得後の報奨金制度もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート・OJT計画書の作成により取り組みサポートをしている。現場の勤務実態・努力・実績・悩み等を観察したり、日誌・各種報告書・直接面接などで把握したりするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修や職員研修への積極的参加により、研鑽に努めている。法人内研修では年度ごとにテーマを定めた研究を推進し、年2回発表をしている。また外部研修参加者には、グループホーム会議で時間を取り、職員間での情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換等を行っている。また法人内でのグループホーム合同勉強会も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人のこれまでの生き方に関する情報把握に努めている。またご家族やケアマネージャーと連携し、安心して生活が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との面接時に立ち会っていただき、情報を得るとともに、安心して利用者を託していただけるように、話をよく伺う。またいつでもご家族の相談に応じている。得た情報は、職員間で共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望される場合、本人・ご家族が何を求められているのか、本人に何が必要か・本人を十分観察ししっかり把握した上でケアプランを作成し、介護支援に生かすようにしている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話を大切にして、その人に合った楽しみや話題づくりを心がけている。また個人の能力を発揮してもらい、お互いに思い合う関係をつくるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどのご家族が足しげく来所されている。情報提供を密に行うことで、ご家族との信頼関係を築いている。また病院への通院や行事参加・家族会参加への協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、自宅訪問や馴染みの美容院利用等を行っている。また友人・知人の来所も歓迎している。居室には、使い慣れた調度など置いてもらうようにしている。	この事業では、デイサービスを併設しており、そこを利用される友人・知人の訪問が結構行なわれているようである。家族も協力的で自宅訪問や馴染みの美容院利用なども行なわれている。以前は、墓参りの支援も行っていただいていた利用者もおられたようだが、現在はそのような利用者はおられない。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事(調理・洗濯物たたみ等)、レクリエーション等日常生活の中で助け合う場面作りを心がけ、利用者同士がなじみ合えるような関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて連絡を取ったり、必要に応じた臨機応変な対応をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の気持ちを尊重している。困難な場合も、本人の今の状態と日々の関わりの中での情報を基に、意向の斟酌に努めている。	最初に利用者の周辺状況とともに、これまでの生活歴を出来るだけ詳しく聞き取る様になっている。また、申し送り帳を利用することで、思いや意向の把握、その後の対応に約立っている。特記事項には、付箋を貼り、全職員で情報の共有を図り、サービスに活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生き方、考え方、趣味・特技などに関して本人やご家族・ケアマネジャーから情報を集め、それを職員間で共有するようにしている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動の様子や、その変化を注意深く観察すると同時に、生活リハビリを中心に、個人の力を発揮できるような場面の設定・提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・職員でのサービス担当者会議を開き、意見・希望を取り入れ主治医の意見も反映している。また状況変化に伴いグループホーム会議での検討やその都度モニタリングを行い、現状に即した計画を作成している。	本人、家族を交えてサービス担当者会議を開き、意見や要望を聞き取ったうえで、必要な場合は主治医の意見も反映した介護計画を作成している。その際、全家族が出席している。また、状況の変化に対応する為に、グループホーム会議も行ない、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は十分に行っている。また情報は申し送りでも共有し、必要に応じて対応策等に関する話し合いを行い、それを生かしたケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ここが衣・食・住の場、レクリエーションの場、機能訓練の場、学びの場、作業の場、憩いの役割を果たす為、個性を大切に柔軟に対応するようにしている。ご家族にも協力を呼び掛け、本人の思いに添えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域の方々のご協力のもと地域の活動には積極的に参加させていただき協力と支援を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の観察より早期発見に努め、協力医院より何かあればすぐに訪問診療をお願いしている。またご家族の希望を聞き、適切な医療を受けられるように支援している。別にかかりつけ医がある場合は、その医療機関と連携を取る様にしている。毎週(木)に訪問歯科をお願いしている。	かかりつけ医の受診は、基本的に家族対応となっている。医師の所見を直接聞く必要があると判断した場合には、同席するようにしている。現在、認知症の専門医の治療を受けている利用者はおられない。また、毎週木曜日に訪問歯科診療を行なっている。定期受診の利用者が3名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師と連携を取りながら、一般的な保健計画や日常の健康管理に努めている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と密に連絡を取り合い、協力し合う関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っていないため、重度化した場合の方針をご家族に十分説明し、納得された上で、署名・捺印を頂き同意いただいている。また重度化した場合の対応は、状況に応じて行う。	看取りは行っていない。今後についてもその予定はないとの事である。食事や水分が自力摂取出来なくなった場合、要するに重度化した場合の方針については、契約時に家族に十分説明し、納得してもらった上で同意書を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で、救急法を勉強している。また緊急時は対応マニュアルに沿って対応している。事業所内にAEDも備え、とっさの場合対処できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、指導を受けている。また月1回のグループホーム会議でも、1名ずつ夜間避難訓練を実施している。運営推進会議の中でも消防訓練を見学してもらっており、役員である自治会長が町内消防団会長でもあることから協力をお願いしている。	訓練は年2回行なっている。うち1回は消防署の指導のもと行なっている。消防設備業者には、2回とも参加してもらっている。また1回は、運営推進会議と合わせて行なっており、会議出席者にもその様子を見学してもらっている。全職員が非常時に対応出来るように、月1回のグループホーム会議の中でも、1名ずつ夜間避難訓練を実施している。	消防会長でもある自治会長の力添えを受けながら、まずは運営推進会議メンバーの訓練参加を実現して下さい。そこから地域の方々への働きかけも始まると思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけないように、言葉使いや態度に注意している。また本人の思いを否定しないようにしたり、個室にも無断で入らないように心がけている。	接遇マニュアルを整備している。法人としても新人研修や中堅研修等を通じて、職員のスキルアップに取り組んでいる。言葉使いや態度のみならず、本人の思いを否定しない意思を尊重することが大事だと考え、サービスに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて衣・食・作業・レクリエーション等で、日々自己選択・決定が出来るような場面を設定している。また言語・非言語のコミュニケーションを密にして、本人の意向を把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、職員側の都合にならないように努めている。また日常生活の中でそれぞれに選ぶ場面を提供し、自己決定できる場面作りに努めている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい衣類、好みの衣類を着用してもらい、清潔感のあるその人らしいおしゃれが保持できるように努めている。またご家族と相談しながら、美容院にでかけたり、出張美容サービスを利用したり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りを相談したり、買物を一緒に行ったりしている。調理や片付け等出来ることを見つながら、一緒に行っている。利用者自ら進んで行ってくださることも多い。また個々の利用者の飲食に関する嗜好に応えるよう努めている。	利用者のその日の体調や気分にもよるが、買い物に同行したり、調理や配膳、食後には下げ膳、茶碗洗い、布巾たたみなど2～3名を除いて、役割を持って生き活きとこなしておられた。一緒に食事を取らせてもらったが、ほとんどの利用者が完食だった。中には音楽に合わせて、時々鼻歌が出る利用者も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭料理を基本としている。旬の物を取り入れ、栄養バランスを考えた献立を作成し、一人ひとりの食事量・水分量をチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内清掃に努めている。その間口腔内を観察して専門ケアが必要と判断した場合は、ご家族に相談した上で訪問歯科診療を受けてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取表と排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握し、日常生活の中で排泄が行えるようにトイレに誘導している。夜間は尿取りパットを利用している利用者も日中ははずしたり、その人の状態に合わせて尿取りパットの利用を調整して、気持ち良さを体感してもらっている。	水分摂取表や排泄チェック表を作成しており、表から一人一人の排泄パターンを把握し、また動き出す、集中力がなくなる、食事が入らない等の特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。夜間、尿取りパットを利用している人も、日中は外すことを念頭に調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の繊維の多い食材を取り入れた献立やおやつに配慮している。また体操や家事仕事等の活動に努め、水分を多く取ってもらい、下剤にできるだけ頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の生活習慣や希望に合わせて、無理強いせずゆっくりとくつろいだ気持ちで入浴が出来るように支援している。	利用者のその日の体調にもよるが、夏が2日に1回、冬が3日に1回の割合で入浴支援している。時間帯は14時～17時を予定している。無理強いせず、利用者のペースでゆっくりくつろがれることを目標に支援している。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠支援の為に、日中は家事を中心とした生活リズムに努めている。また個人の睡眠パターンを把握し、それぞれに合った生活リズムの維持を意識的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が常時服薬情報に留意しており、医師の指示のもと服薬を行い、症状の変化も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に色塗り等、一人ひとりの能力に応じた場面作りに努めている。また季節の行事・習わし等を大切に、ご家族や地域の方の力を借りながら楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域行事の参加・買物・散歩・ドライブ等、楽しみを見つけて計画し支援している。またご家族との外出なども支援している。	3日に1回出かける食材購入には、利用者を1名ずつ同行している。また、日用品を自分で購入される利用者が1名おられ、職員が同行している。その他、ドライブも楽しみの一つだが、全員の参加は難しくなって来ている。日常の外出支援については、今後工夫をお願いしたいところでもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名が小遣いを持っておられ、自主性を重んじ、能力に応じた金銭管理の支援体制を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、プライバシーの保護には配慮しながら支援している。年賀状についても、意向に添って支援した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは開放感あふれ吹き抜けにし、床暖房も完備、天井には扇風機が回り、換気とソフトで自然な温度コントロールをしている。またテラスや小庭園でくつろぐことが出来る。季節に合わせた植物や、壁面には利用者と共に作成した季節毎の作品を貼り、季節を感じてもらっている。	玄関、廊下、居間などの共用部分もゆったりと設計されており、特に入居者が集う居間部分は解放感のある吹き抜けで、床暖房も完備されている。また、壁面は利用者と職員で共同製作したひな人形の貼り絵や幼稚園児のぬりえがところ狭しと飾られている。童謡も流れ、くつろぐの空間となっている。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に応接セットを設けている。また玄関内側にも長椅子を置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談して、これまでの慣れ親しんだ家具や生活用品を持ち込み使用し、安心し落ち着いて過ごされるようにしている。本人の好みで、行事等の写真を掲示している。	居室の設備として洗面台、エアコンが備えつけられている。ベッドや家具、生活用品はこれまで慣れ親しんだ物を利用して頂く様お話している。家族写真や友達との写真を貼って、居心地良く過ごせる部屋作りがなされていた。また、仏壇をお持ちの方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には、写真付きの名前を掲示したり、トイレと表示する事で、それぞれが場所を確認できるようにしている。		